

干潟の名称	十三湖
干潟の所在地	青森県北津軽郡市浦村
干潟の面積	0に近い
干潟の地形タイプ	十三湖という潟の周囲は護岸されているか、もしくはヨシ原になっている。干満差はほとんどないので、干潟といえるようなところは存在しない。岸辺は遠浅であるが、全て潮下帯となる。風向きや波浪の影響で水位が変動するようである。十三湖大橋南側に位置する前潟もほとんどが護岸されており、干潟は存在しない。また、岩木川の河口部分も護岸がなされている。
干潟の底質	浅い潮下帯の底質は砂質で、酸化的である。場所により、極めて硬くしまった砂岩状のところが存在する。岸辺にはところによって大きな礫が混じる。
干潟植生	岸沿いにヨシ原が発達しているところがあり、そこには、カサスゲ、オオヌマハリイ(?)などが混じる。
干潟の特徴	今回調査を行った浅い潮下帯の2カ所で、観光シジミ採りが行われており、小川原湖漁協が管理している。シジミ採りの場所は水深30～45cmほどであった。中島の北端には細長い砂州が出現する。また、西岸の岸辺には、植物腐植が浮泥のようになって打ち寄せられていた(幅3mほど)。
生物相の特徴	浅い潮下帯にはヤマトシジミ、イトゴカイ類(<i>Notomastus</i> 属の1種)、ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイが生息しており、それ以外では、ウミナナフシの1種(<i>Cyathura</i> 属の1種)が出現する程度で、底生生物相は極めて貧弱である。岸辺のヨシ原には、カワザンショウガイとヒメハマトビムシが多い。ベンケイガニ類も見られるが、密度はそれほど高くはない。
調査者氏名	鈴木孝男、内野 敬、武田 哲
調査年月日	2003年6月15日

干潟の名称	七尾湾住吉川河口
干潟の所在地	石川県鳳至郡比良
干潟の面積	0.1ha以下
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	砂泥、砂、砂利
干潟植生	汀線部にヨシ
干潟の特徴	住吉川河口開口部にある干満差の小さいごく小規模な干潟
生物相の特徴	多毛類や甲殻類など干潟生物の種数と現存量は少ないものの、ウミニナと****が生息する。
調査者氏名	風呂田利夫、飯島明子、木下今日子、中山智敦
調査年月日	2003年8月6日

干潟の名称	油谷湾
干潟の所在地	A: 山口県豊浦郡豊北町阿川 赤崎川河口
干潟の面積	約 50ha
干潟の地形タイプ	A: 河口干潟
干潟の底質	A: 砂質
干潟植生	A: ヨシ原
干潟の特徴	油谷湾は北岸を向津具半島によって日本海から隔てられた東西に長い内湾である。湾口部は湾外から外洋水が流入し、水質は透明度が高く、波は穏やか。干潟が形成されにくい本州日本海側では珍しい大規模な干潟が見られる。最奥部を除く南岸沿いは岩礁と砂浜とが発達している。
生物相の特徴	A (阿川) は 1970 年代後半ごろまでオキヒラシイノミガイ (世界的北限にして本州唯一の記録) などの死殻が得られ、またキサガイ, アリソガイ, オフクマスオなど内湾潮下帯細砂底に特異的な希少二枚貝類が記録されていたが、今回はそれらは確認されなかった。
調査者氏名	福田宏, 越山洋三, 鈴木田亘平, 森千恵, 黒田一磨
調査年月日	A: 2003 年 5 月 5 日

干潟の名称	中海
干潟の所在地	A：鳥取県米子市 米子水鳥公園、B：島根県八束町 江島、C：島根県美保関町
干潟の面積	約 2ha
干潟の地形タイプ	潟湖干潟
干潟の底質	A：岩礫、B：細砂質、C：泥質・細砂質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	中海は島根県、鳥取県にまたがって位置する。斐伊川下流域を構成する宍道湖から大橋川を介して汽水が流入し、東側から境水道を介し海水が流入するため、わずかに塩分を含んだ汽水湖である。湖の周囲はコンクリート護岸で囲まれ、護岸の前方は砂質と岩礁が見られる。干潮時も干潟はさほど広がらない。
生物相の特徴	大規模な湖にもかかわらず生物の多様性は乏しい。注目すべき種としてはミズゴマツボが挙げられる。また多数のカワザンショウ類やカワグチツボも確認された。また細砂底を掘り返すと多数のヤマトシジミ、ホトトギスが確認された。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨、戸田顕史
調査年月日	2004年10月23、24日

干潟の名称	宍道湖
干潟の所在地	A: 島根県松江市 大橋川河口 B: 島根県八束郡宍道町 C: 島根県平田市宍道湖公園附近
干潟の面積	約 40ha
干潟の地形タイプ	潟湖干潟
干潟の底質	砂質, 岩礫
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	宍道湖は島根県東部に位置し, 東に隣接する中海を介して海水が流入するため, わずかに塩分を含んだ汽水湖である。水深は浅く, 潮間帯の幅は約 1 m 以下である。岸は砂泥質と岩礁で, 干潮時も干潟はさほど広がらない。ヨシ原は水中まで及んでいる。ヤマトシジミの多産地で, 重要な水産資源となっている。
生物相の特徴	規模が大きい汽水湖にもかかわらず, 生物の多様性は乏しい。確認された軟体動物の多くの種は石組み護岸間などの石の表面に付着して棲息していた。注目すべき種としてはミズゴマツボが挙げられる。また多数のカワザンショウガイやカワグチツボも確認された。ヤマトシジミの産地として知られているが, 今回の調査でも多数見られた。
調査者氏名	福田宏, 鈴木田亘平, 黒田一磨
調査年月日	A, B: 2003 年 5 月 17 日 C: 2003 年 5 月 18 日